

冠動脈疾患患者に特徴的にみられる自我状態

～エゴグラム分析からの考察～

郡 司 詩 子

はじめに

循環器では、患者とのエピソードが“循環器気質”として話題となる。看護の場面でも、検査の時間や内容を心配する患者、細かい説明を何度も求める患者、血圧の値に対して敏感に反応を示す患者と関わることがある。循環器基質がどのようなものであるかを理解し、個々の患者の内面を把握することが看護にとっても重要である。交流分析では自我状態や言葉、態度、行動を分析することによって自分の他人に対する対処の仕方、他人の自分に対する対処の仕方を意識的に統御することができると言われて¹⁾。すなわち、自分や他者の自我状態の特徴を把握することによってそれぞれの行動パターンや取り交わす人と人との交流パターンを予測することが可能になる。冠動脈疾患がある患者の自我状態を捉えることができれば、患者理解、コミュニケーション、看護ケアに活用できると考えられる。そこで、冠動脈疾患がある患者の自我状態にみられる特徴を明らかにし、その看護に役立てるために調査、分析を行ったので報告する。

方 法

1. 対象

質問を理解し自力で筆記することが可能で、精神的疾患がなく、冠動脈疾患やその既往がある患者（以下、A群とする）52名と、精神的疾患、冠動脈疾患や冠動脈疾患の既往がない患者（以下、B群とする）59名を対象に調査を行った。

倫理的配慮として、対象者には研究目的を紙面

と口頭で説明、自由意思で同意を得られた患者から質問紙を回収した。

2. 研究期間

平成19年7月14日～平成21年3月29日

3. 研究方法

交流分析の構造分析で一般に使用されているエゴグラム質問用紙²⁾（資料）を用いてパーソナリティを5つの心で分析する。5つの心とは批判的な親心（critical parent；以下CP）、養育的な親心（nurturing parent；以下NP）、理性的な親心（adult；以下A）、自由な子供心（free child；以下FC）、従順な子供心（adapted child；以下AC）である。各質問項目に「はい（2点）」、「どちらともいえない（1点）」、「いいえ（0点）」を示し、それぞれの心（CP、NP、A、FC、AC）の最高得点を20点（すべて「はい」）とする。A群・B群に分けて回収した質問紙を、マン-ホイットニーのU検定を用いて各項目の得点の平均値をそれぞれグラフ化し比較する。A群については52名のエゴグラムパターンを分析する。

4. 用語の定義

自我状態・・・思考、感情、さらには、それらに関連した一連の行動様式を統合した一つのシステム（E・バーン）

結 果

各項目の平均値は、患者A群をB群と比較すると、A群はCPが1.67点高く、FCが1.73点低いという特徴を示す結果になった。

エゴグラム（図1）に表すとA群はCP・NP・Aが高く、FC・ACの値が低い右下がりの型となった。一方B群はCP・ACが低く、NPをピークとしてFCもある程度高い、緩やかな山型を描いた。

資料. エゴグラム質問用紙

以下の質問に、はい(○) いいえ(×) どちらともいえない(△) で答えてください。
 ただしできるだけ○か×で答えるようにしてください。
 どれが正しいかではなく、自分の行動パターンがどれかを答えてください。
 一つの質問に長く考えず、速やかに答えてください。

○ △ ×

C P 点	1	あなたは何事もきちっとしないと気がすまないほうですか			
	2	人が間違っただけをした時、なかなか許しませんか			
	3	自分を責任感の強い人間だと思いますか			
	4	自分の考えを譲らないで、最後まで押し通しますか			
	5	あなたは礼儀、作法について、やかましい躰を受けましたか			
	6	何事もやり出したら最後までやらないと気がすみませんか			
	7	親から何か言われたら、その通りにしますか			
	8	ダメじゃないか、…ねばならない、という言い方をしますか			
	9	あなたは時間やお金にルーズなことが嫌いですか			
	10	あなたが親になった時、子供を厳しく育てると思いますか			

N P 点	1	人から道を聞かれたら、親切に教えてあげますか			
	2	友達や部下・子供を誉めることがよくありますか			
	3	他人の世話をするのが好きですか			
	4	人の悪いところよりも、良いところを見るようにしていますか			
	5	がっかりしている人がいたら、慰めたり、元気付けてあげますか			
	6	友達に何か買ってあげるのが好きですか			
	7	助けを求められると、私に任せなさい、と引き受けますか			
	8	誰かが失敗した時、責めないで許してあげますか			
	9	弟や妹、または年下の人を可愛がるほうですか			
	10	食べ物や着る物のない人がいたら、助けてあげますか			

A 点	1	あなたはいろいろな本をよく読むほうですか			
	2	何かうまくいなくても、あまりカッとなりませんか			
	3	何か決めるとき、いろんな人の意見を聞いて参考にしますか			
	4	初めての事をする場合、よく調べてからしますか			
	5	何かをする場合、自分にとって損か得かよく考えますか			
	6	何か分からないことがあると、人に聞いたり調べたりしますか			
	7	身体の調子が悪いとき、自重して無理しないようにしますか			
	8	両親や上司と、冷静に、よく話し合いますか			
	9	勉強や仕事をテキパキと片付けていくほうですか			
	10	迷信や占いなどは、絶対に信じないほうですか			

F C 点	1	あなたは、おしゃれが好きなのですか			
	2	皆と騒いだり、はしゃいだりするのが好きですか			
	3	「わあ」「すごい」「かっこいい」などの感嘆詞をよく使いますか			
	4	あなたは言いたいことを遠慮なく言うことができますか			
	5	嬉しい時や悲しい時に、顔や動作に自由に表すほうですか			
	6	欲しいものは、手に入れないと気がすまないほうですか			
	7	異性の友人に自由に話しかけることができますか			
	8	人に冗談を言ったり、からかったりするのが好きですか			
	9	絵を描いたり、歌を歌ったりするのが好きですか			
	10	あなたはイヤなことをイヤと言いますか			

A C 点	1	あなたは人の顔色を見て、行動するようなことがありますか			
	2	イヤなことをイヤと言わず、抑えてしまうことが多いですか			
	3	あなたは劣等感が強いほうですか			
	4	何か頼まれると、すぐやらないで引き延ばす癖がありますか			
	5	いつも無理をして、人からよく思われようと努めていますか			
	6	本当の自分の考えより人の言うことに影響されやすい方ですか			
	7	憂鬱な気分や悲しい気持ちになることがよくありますか			
	8	あなたは遠慮がちで消極的なほうですか			
	9	人の機嫌を取るような面がありますか			
	10	内心では不満だが、表面では満足しているように振舞いますか			

ご協力ありがとうございました。

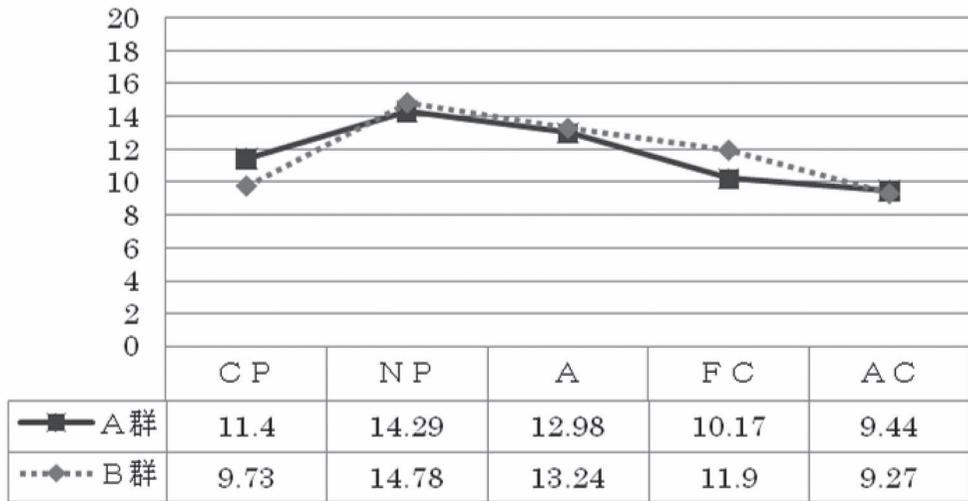


図1. 各群のエコグラム CP; critical parent, NP; nurturing parent, A; adult, FC; free child, AC; adapted child

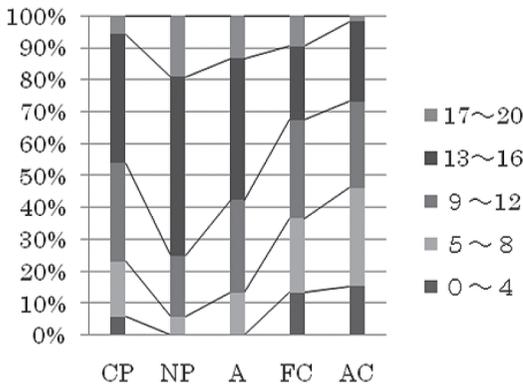


図2. A群の患者分布 CP; critical parent, NP; nurturing parent, A; adult, FC; free child, AC; adapted child

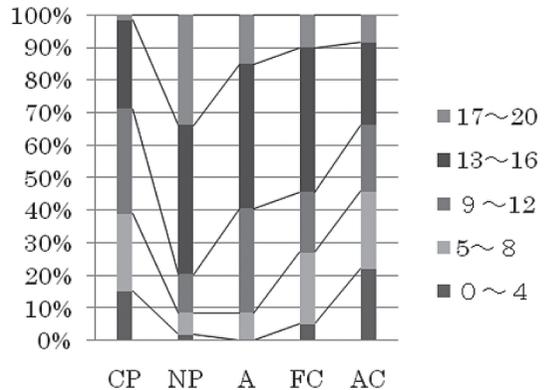


図3. B群の患者分布 CP; critical parent, NP; nurturing parent, A; adult, FC; free child, AC; adapted child

B群の型は自分にも他人にも肯定的な対人的構えを持ち、人間関係がうまくいきやすい自我状態であった。

次に各項目のエネルギー量（得点数）について患者分布を比較する（図2, 3）。13点以上のエネルギー量を持つCPはA群46.2%, B群28.8%で、CPが高い患者はA群に多かった。13点以上のFCはA群32.7%, B群54.2%で、10点以下のFCはA群57.7%, B群37.3%であった。A群はFCが低い患者が多く、B群はFCが高い患者が

多かった。

患者A群のエコグラムを分析すると、FCが低く、NP・ACが高く、高学歴で部下の面倒見がいい仕事中毒タイプが7例だった。さらにACも低い管理職によく見られるタイプは10例であった。仕事中心型で自分の主張を抑え、黙々と仕事をこなすN型は実務家タイプと言われ、8例であった。B群に特徴的に見られたFCが高い台形のマイホーム型やFC優位型の自由人型はA群にはほとんど見られなかった。

A群の42.3%の患者はFCよりACの方が高かった。また23.0%はACが基準値よりも高かった。これは自己を抑え、順応したように振舞う傾向を示している。

対人的構えでは、憂鬱になりやすい自己否定・他者肯定的な構えが8例に、絶望的・虚無的といわれる自他否定的な構えが2例にみられた。

全体的にはP主導型が多くみられ「～せねばならない、～すべき」という良心過剰や強迫性格が強く、批判的な傾向が強かった。

考 察

E・バーンが創案した交流分析によると、人格(パーソナリティー)は自分の内部にある3つの部分から形成され、これを自我状態という¹⁾。杉田氏らは個々の自我状態や言葉、態度、行動を分析することによって「自分の他人に対する対処の仕方、他人の自分に対する対処の仕方を意識的に統御することができる」と述べている²⁾。つまり、自分や他者の自我状態の特徴を把握することによってそれぞれの行動パターンや取り交わす人と人との交流パターンを予測することが可能になる。循環器では、「循環器気質」がときどき話題となり、看護の場面でも、検査の時間や内容を心配する患者、細かい説明を何度も求める患者、血圧の値に対して敏感に反応を示す患者と関わることもある。確かに、冠動脈疾患ではタイプAパーソナリティーという行動特性にみられる神経質、過度の競争的動因、時間的切迫感、攻撃性などは疾患の発症に関連すると言われている³⁾。しかし、人間の内面的な部分の違いが、人体に影響を及ぼし、疾患が発症することを現象として捉えることは難しい。療養する患者の行動や言動、感情の表出に触れ、関わりを持つ度に内面的な問題に深く興味を感じる。

冠動脈心疾患患者と一般患者の平均値エゴグラムを比較すると、冠動脈心疾患患者は一般患者よりもCPの値が高く、批判的な親心の自我が強く見られることが分かった。CPは自分の価値観や考え方を優先して理想を求め、義務感や責任感が強く努力家な反面、不完全を許さず批判的といっ

た面が特徴的である。つまり冠動脈疾患に罹患しやすい患者特性“タイプAパーソナリティー”の特徴に当てはまる。そしてこれが“循環器気質”として感じる冠動脈疾患患者の特徴と考えられる。

タイプAパーソナリティーの特徴は、神経質、過度の競争的動因、時間的切迫感、攻撃性、などで、日本ではこのパーソナリティーはワーカホリックに多い傾向行動と言われている³⁾。冠動脈心疾患患者52名のエゴグラム分析でも、作業効率や管理能力などを重視する仕事に関連した特徴を示すエゴグラムが多く見られていた。

また、A群の半数以上患者が自由奔放さを示すFCの値が、B群より低かった。FCは自由な子供の自我を表すため、この値が低いと物事に対して慎重であり、感情を表に出さず自己に楽しみを与えない傾向があると言える。さらに対人的構えでは「自分はOKでない」といった自己否定型を示した患者もいる。A群52名のエゴグラム分析からはFCに比べ、ACが高い患者が特徴的にみられた。以上のことから冠動脈疾患患者の多くは、自己を抑え順応したように振舞い、ストレスをより感じやすい傾向を持つということがわかった。今回は冠動脈疾患患者が抱えるストレスについての調査はしなかったが、その調査も必要と思われる。

入院は生活環境を大きく変化させ、患者は家族以外の他患者と入院生活を送らなければいけない。壮年期の男性患者であれば、突然の仕事の中断、休職に伴う減収など、疾患以外の不安や心配も発生する。しかし、冠動脈疾患患者は責任感が強く、努力家、不完全を許さず、批判的親心が強く、心配や不安を表現することができないでいる人が多い。看護の場面でも仕事や入院による不安や心配を訴える冠動脈疾患患者と関わるが、実際はそれ以上に不安や心配を潜在させている患者は多いと考える。看護者は患者が不安や心配などを潜在させていないか、把握と理解に努め、気持ちを表出できないまま検査や治療に臨むことがないように、また不安や心配を抱えて入院生活を送ることのないよう注意したい。

また、患者は冠動脈疾患の治療の特徴である生活習慣の改善・食事や安静度の制限が必要となる。自他共に信念・道徳心を求める傾向の患者、タイプAの行動特性をもつ患者であれば「…ねばならない」と制限を厳守するだろう。達成できれば患者自身の満足になるが、患者に与える強制や制限はストレスになることもある。看護者は患者が過度な心理的圧迫を感じていないかをアセスメントし対応していく必要がある。

タイプAの行動は、行動の振り返りや自律訓練法などのリラククス法を行うことで修正していくことも可能といわれている。看護者は患者を無理に変化させるのではなく、患者の言葉に耳を傾け、患者が安心して療養できるよう配慮しながら、患者自身が自らAタイプの行動に気づき修正できるようアプローチしていくことが大切と考える。

結 論

1. 冠動脈疾患患者は、冠動脈疾患でない患者と比較すると批判的な親心の自我が高く、自由な子供心の自我が低い特徴がある。また、作業効率や管理能力など仕事に関連した特徴を示す患者も多く、タイプAパーソナリティーの特徴に当てはまる。

2. 冠動脈疾患患者は義務感や責任感が強く、努力家な反面、不完全を許さず批判的といった面が見られる。一方では自分の感情を抑え順応しようとする特徴を示す。そのため、病態の危険因子であるストレスをより感じやすいという傾向がある。

文 献

- 1) 中村和子・杉田峰康：わかりやすい交流分析。株式会社チーム医療出版、2005
- 2) 杉田峰康・白井幸子：よりよい看護と患者心理。株式会社チーム医療出版、1997
- 3) 栗原 久：人の性格と突然死－A型人間が危ない。株式会社山手書房新社、1992

参 考 文 献

- 1) 桂 戴作 他：交流分析入門。株式会社チーム医療出版、1987.
- 2) 藤田敬一郎・西元勝子：ナースのための交流分析トレーニング－よりよき患者理解と自己実現を目指して－。株式会社医学書院、1994
- 3) 新里里春 他：交流分析とエゴグラム。株式会社チーム医療出版、2006
- 4) メロディ シェネバード著。藤田敬一郎・杉野元子訳：ナースのためのアサーティブトレーニング さわやかに自分を主張する法。医学書院、1995
- 5) 中野正孝編：看護研究のための統計学入門。JINブックス、医学書院、1997